

## 令和5年度 港南台地域ケアプラザPDCAシート\_公表用（事業計画書、事業報告書、事業実績評価

### 一総括表一

#### ◆ 事業計画

##### □ 地域の現状と今後の方向性

###### 1 地域の現状

- (1) 高齢化率が30%を超えており、要介護認定率は低く、元気な高齢者が多い
- (2) 集合住宅では高齢者の単身世帯率が27%と区平均に比べ、非常に高い
- (3) 地域活動者の高齢化に伴い、世代交代が進んでいる
- (4) 介護事業所数が区内で最も多く、医療機関も多い。連携に協力的な医療機関が多い
- (5) 障がい者支援の施設、学校が多く、障がいのある転入者も増えているが現状として支援者が不足している
- (6) 外国にゆかりのある世帯が増えたが、コロナ禍において正確な情報を取得することが困難となっている

###### 2 今後の方向性

- (1) 地域や区、関係機関・事業者等との連携を強化し、福祉保健課題の解決に向けて地域福祉保健計画を推進していきます。
- (2) 地域包括ケアシステムの推進に向けて取り組んでいきます。（認知症サポートー養成講座、地域ケア会議、介護予防・生活支援サービスの充実）
- (3) 「共助」の取組がさらに厚くなっていくために取り組んでいきます。（福祉ネットワーク）
- (4) ボランティア活動の担い手育成に向けて支援を進めます。
- (5) 高齢になっても、いつまでも健康で生活を続けられるように支援を進めます。
- (6) 子どもや子育て中の家庭が、暮らしやすい明るい街づくりに努めます。
- (7) 障がい児・者を支えるボランティア育成と、交流を通じた心のバリアフリーに努めます。
- (8) 地域防災対策の必要性が高まっています。要援護者の支援とともに、福祉避難所としての役割を果たしていきます。

##### □ 今年度の重点的な取組

新規	継続	—具体的な取組内容—
<input type="checkbox"/>	■	地域や関係機関と連携し、福祉保健課題の解決に向けて第4期地域福祉保健計画を推進していきます。
<input type="checkbox"/>	■	築いてきた地域包括ケアシステムを更に発展させ、高齢の方も安心して生活できるよう地域での見守りや権利擁護に関する取組を進めます。
<input type="checkbox"/>	■	在宅医療と介護の連携の推進した取組として、病院とケアマネジャーとともに研修会の企画・開催を進めます。
<input type="checkbox"/>	■	介護予防・生活支援サービス総合事業「こもれびカフェ」において、要支援者等の利用が増えるよう、ケアマネジャーへの更なる周知を進めます。
<input type="checkbox"/>	■	住民の見守りの場として移動販売を活用し、地域全体で孤立解消に向け取り組んでいきます。
<input type="checkbox"/>	■	地域の中で住民同士で助け合う共助の活動とし「福祉ネットワーク(助け合い活動)」を更に支援していきます。
<input type="checkbox"/>	■	特別支援学校や障がい児者施設等も多い地域のため、誰もが参加しやすい街づくりを進めていきます。
■	<input type="checkbox"/>	港南台福祉ネットワーク主催による、誰もが気軽に参加出来る「地域交流カフェ」の開催を支援します。

## ◆ 事業報告・事業実績評価

### 振り返り

地域住民の福祉保健活動を継続的に支援するため、区役所や区社協、地区社協、民生委員等と連携を図り、協力体制を構築しています。なお、コロナ禍での各事業の停滞等により、地域福祉保健計画の振り返り検証ができず、次年度に継続となりました。

法人内の横浜市南部病院、南部訪問看護ステーションと協働し、地域のケアマネジャーを対象とした研修会を年2回開催しました。

新規事業の港南台福祉ネットワーク主催「まろにえカフェ」では地域交流の場として、毎月1回開催しました。地域とつながりのない方同士のふれあいや交流が深まったこと、ボランティア希望者が増えたこと等により、一定の成果が得られました。今後も地域住民の生活課題ニーズに変化がないか、地域情報を適宜収集し、必要な情報を発信していきます。

### 区からのコメント

職員体制が整わず、業務増等で安定した地域包括支援センター事業の運営が難しかった中、認知症事業や介護予防支援事業では着実に成果を上げています。センター養成講座を開催した企業等から、地域の相談窓口として認知され、認知症の相談につながりました。また、介護予防支援事業では、企業とコラボレーションし、東洋医学で学ぶ「健康寿命」について講座を開催しました。工夫を凝らし、参加者の関心を集めたことで、新規参加者の獲得や、参加者から好評を得ることにつながりました。医療機関や支援機関との関係づくりもできています。引き続き、虐待を未然に防ぐ関わりや、虐待への速やか介入について、区を含む関係機関とのスムーズな連携をお願いします。

新規事業の「まろにえカフェ」では、毎回10人以上のボランティアが話し相手になっており、その様子を見た参加者がボランティア登録をするなど、住民主体のよい循環が生まれています。より良い事業を創出・継続していくよう、引き続き住民主体の取組へのサポートをお願いします。